

スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用について

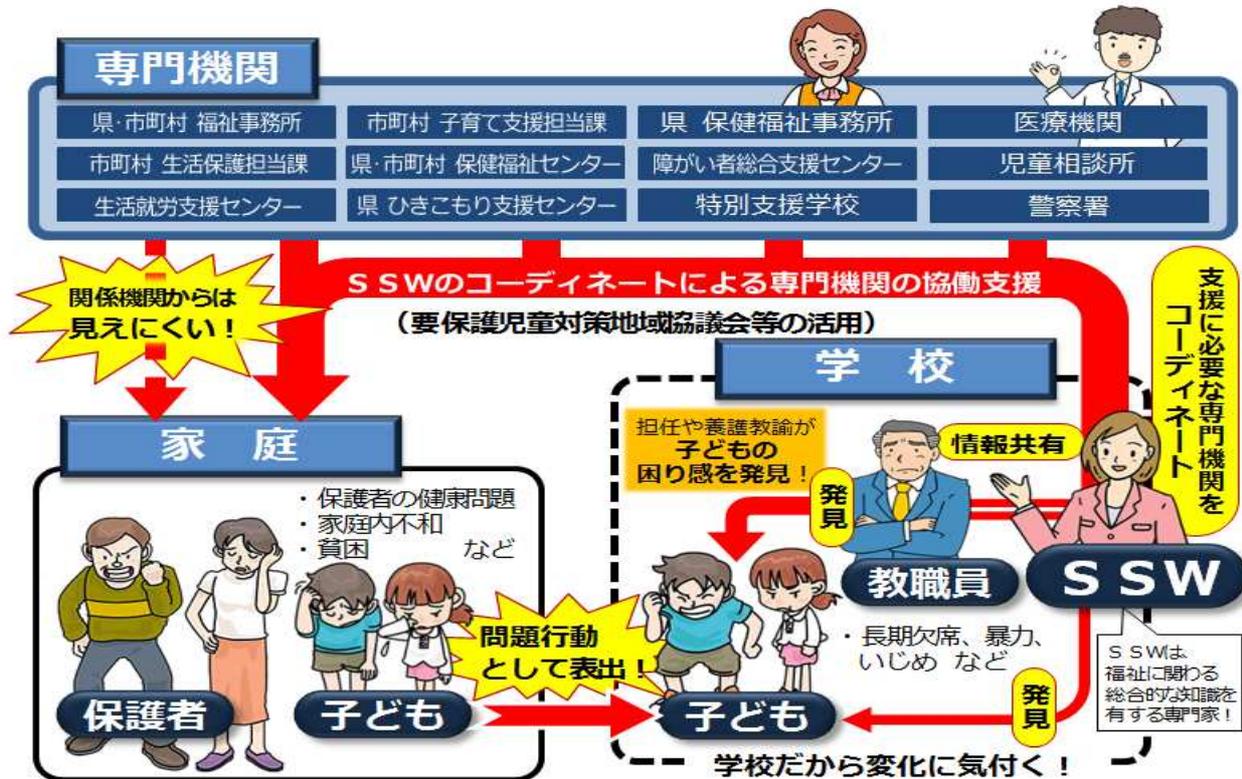
教育委員会

■ SSWの配置数

【拡充内容】	H27	H28
配置時間	4,426 時間	10,071 時間
配置人数【予算ベース】	8人	18人

※H21年度4人、H22年度から5人、H25年度から8人を配置

■ 事業スキーム



■ スクールソーシャルワーカーがより効果的に機能するために解消すべき課題

長野県スクールソーシャルワーカー第1回SSW実務者会（平成28年4月27日）アンケートより

教育委員会・学校現場の課題	連携支援先（地域福祉行政等）の課題
<ul style="list-style-type: none"> ○ SSWの資質向上 支援に必要な知識と援助技術の向上。 ○ 学校側の活用能力を向上 学校側のSSWをコーディネートする職員の資質向上。 (管理職、生徒指導主任、教育相談担当者など) ○ 支援の連続性を向上 小中高における子どもの支援に関わる情報共有と丁寧な引継ぎ。 ○ 教育事務所のアウトリーチ機能を強化 いじめ・不登校地域支援チームによる学校支援の機能を強化し、早期発見と早期支援を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 福祉行政職員の認知度向上 福祉行政職員に対して、SSW活用事業の認知度を向上。 ○ 要保護児童対策地域協議会の活性化 要保護児童対策地域協議会の開催方法等について周知。 ○ 相談者の心理的な支援 福祉制度の活用とともに、相談者の心理的な支援をする仕組みづくりを推進。 ○ 相談者同士が支えあう仕組みづくりの推進 不登校の問題を抱える子どもをもつ保護者同士が情報交換や研修をするピアグループ的な仕組みづくりを推進。